

**SAP Solutions for Governance,
Risk, and Compliance**

SAP NetWeaver®

効果的なガバナンス、リスク、コンプライアンス管理の基盤

THE BEST-RUN BUSINESSES RUN SAP™



©Copyright 2006 SAP AG. All rights reserved.

いかなる形式またはいかなる目的においても、SAP AGの書面による許可なく、この文書の一部または全部を複製または転載することはできません。この文書に記載されている情報は事前の予告なく変更する場合があります。

SAP AGおよびその販売会社を通じて販売されているソフトウェア製品の中には、他のソフトウェア開発会社が著作権を有するソフトウェア・コンポーネントが含まれていることがあります。

Microsoft、Windows、Outlook、およびPowerPointはMicrosoft Corporationの登録商標です。

IBM、DB2、DB2 Universal Database、OS/2、Parallel Sysplex、MVS/ESA、AIX、S/390、AS/400、OS/390、OS/400、iSeries、pSeries、xSeries、zSeries、z/OS、AFP、Intelligent Miner、WebSphere、Netfinity、Tivoli、Informix、i5/OS、POWER、POWER5、OpenPowerおよびPowerPCは米国ならびにその他の国におけるIBM Corporationの商標または登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、PostScriptおよびReaderは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

OracleはOracle Corporationの登録商標です。

UNIX、X/Open、OSF/1、およびMotifはOpen Groupの登録商標です。

Citrix、ICA、Program Neighborhood、MetaFrame、WinFrame、VideoFrame、およびMultiWinはCitrix Systems, Inc.の商標または登録商標です。

HTML、XML、XHTML、およびW3CはW3C (World Wide Web Consortium, Massachusetts Institute of Technology)の商標または登録商標です。

JavaはSun Microsystems, Inc.の登録商標です。

JavaScriptは、Netscapeが開発して導入したテクノロジーに対するライセンスのもとで使用される、Sun Microsystems, Inc.の登録商標です。

MaxDBはMySQL AB, Swedenの商標です。

この文書で言及されている、SAP、R/3、mySAP、mySAP.com、xApps、xApp、SAP NetWeaver、およびその他のSAP製品およびサービス、およびこれらに関連するロゴは、ドイツおよびその他複数の国におけるSAP AG社の商標または登録商標です。その他、言及されたすべての製品およびサービスは、関連する各企業の商標です。この文書に含まれるデータは情報提供のみを目的としています。各国別に製品仕様が変更される場合があります。

記載の内容は予告なしに変更されることがあります。SAP AGは、この文書の誤りおよび遺漏に関し、一切の責任を負わないものとします。この文書は、明文化されているか否かに関わりなく、商品性、特定目的への適合性、あるいは第三者の権利を侵害していないことを含み、かつこれらに限定することなく、いかなる種類の保証もせず、現状のまま提供されます。SAPは、この文書の使用の結果として発生した直接、間接、特別、または派生的な損害を含め、かつこれらに限定することなく、いかなる損害に対しても責任を負わないものとします。SAPは、この文書に含まれる情報、字句、図、リンク、およびその他の内容の正確性あるいは完全性を保証しないものとします。

目次

概要	4
コンプライアンス以外の要素をも視野に入れる	6
GRC管理を支援するアーキテクチャを目指して	7
SAP NetWeaver：効果的なGRC管理の基盤	10
ステップ1：理解	10
ステップ2：文書化	10
－ユーザ生産性向上：ポータル、ロール、プロファイル	11
－ユーザ生産性向上：Duet™ ソフトウェア	11
－ユーザ生産性向上：SAP NetWeaver Mobile	12
－ユーザ生産性向上：ナレッジマネジメント	12
－データ統合：「統一された情報ソース」の実現	12
ステップ3：ガイド/監視	13
－ビジネスイベント管理：ワークフローを使ったビジネスタスクの管理	13
－ビジネスイベント管理：自動化と監視	13
－アプリケーションガバナンスとセキュリティ管理：セキュリティの強制	14
ステップ4：レポート作成	15
－将来のレポート作成機能：リアルタイムコンプライアンスの実現	16
エンタープライズSOAの実現：設計と導入	16
－統合ライフサイクル管理：集中管理	16
－エンタープライズSOA：コンプライアンスを組み込む基盤	17
－カスタム開発：SAP NetWeaver 開発ツールキット	17
GRC管理の基盤、SAP NetWeaver	18
結論	19

概要

貴重なリソースとマネジメント層の関心をいまだに特定の規制要件に向けている企業がある一方で、広い視野に立った統合的アプローチを採用する企業も現れ始めています。このアプローチとは、相互に関係するさまざまなリスクに、包括的なガバナンス、リスク、コンプライアンス(GRC)管理によって対処することです。

今日の多くの経営管理手法は、組織、システム、地域的要素といった複数の側面に断片化していることが特徴です。GRC管理においても同様で、取り組みが個別化し、分散している状態が見られます。これにより、GRC管理全体のコストが増大する可能性や、相互依存性を総合的に管理できないことによるリスクが高まる可能性が生じます。

リスクの増大と規制による圧力に後押しされる形で、分断された各組織はGRCを集中管理する戦略を検討し始めます。このGRC管理の一元化を可能にするのが、ビジネスソフトウェアです。システムに格納された情報を活用し、GRCフレームワーク(図1参照)に組み込むことで、さまざまなビジネス上のリスクや問題に個別対応する体制から、事前対応的なGRC管理によってビジネスの予見力とパフォーマンスを高める体制へと移行することができます。

本書では、GRCフレームワーク全体には詳しく触れず、このフレームワークの技術基盤、すなわち「共通ソフトウェア基盤」を重点的に解説します。リスク管理を全社的に浸透させ、具体的なリスク対応手法を提供するさまざまなGRCアプリケーションを使用する際、作業の重複や断片化といった無駄を省くためには、GRCフレームワークの基盤として、再利用可能な共通機能を有するテクノロジーコンポーネントが必要となります。SAP NetWeaver®プラットフォームにより、GRCの概念レベル(図1参照)における「共通ソフトウェア基盤」が提供されます。

最高情報責任者(CIO)の多く、またSAP®アプリケーションを日常的に使用しているユーザであっても、SAP NetWeaverがGRCの基盤として機能するということには違和感を覚えるかもしれません。SAP NetWeaverは主に、さまざまな異なるシステムと組織の枠を越えて、人、プロセス、情報を統合する、アプリケーションプラットフォームとして紹介されています。



図1: ガバナンス、リスク、コンプライアンス(GRC)管理のフレームワーク

SAP NetWeaverは、各機能が互いに統合しているだけでなく、mySAP™ Business Suiteアプリケーション、さらには、さまざまな標準技術に基づいたサードパーティ製アプリケーションとも統合しています。つまりSAP NetWeaverは、GRC管理を支援する基盤にふさわしいプラットフォームです。

SAP NetWeaverの独自性は、たとえば、GRC管理を企業全体で効率的に実践するための、モデル駆動型の柔軟な技術基盤や、企業が独自に準拠すべき法規制や社内ポリシーを満たすための仕組みを継続的に維持できることなどに表れています。SAPとSAP以外のアプリケーションを連携し、コンプライアンスアプリケーションを構築することで、企業は増え続けるコンプライアンスコストを抑えられます。「自社開発かパッケージか」という考え方を打破し、「パッケージの使用領域を徐々に広げる」という、より現実的なアプローチを実践できれば、「効率的で効果的なリアルタイムGRC管理」という最終目標の達成は間近です。

SAP NetWeaverは新しい事業課題にアプリケーションの統合/調整/拡張によって対応しますが、GRCに関する課題に対しても同様です。SAP NetWeaverはモデル駆動型の開発手法を採用しています。種々の問題は、この手法を利用することで解決できます。必要とされるのは、ビジネスプロセスの変化に対する柔軟な対応、特に、法規制の変更に迅速かつ適切に対応できる機能です。ビジネス駆動型のソフトウェアアーキテクチャであるエンタープライズ・サービス指向アーキテクチャ(エンタープライズSOA)は、主要なビジネスプロセスへのアクセスを可能にする各サービスに基づいてアプリケーションを構築する機能で、SAP NetWeaverのパワーはこれによってさらに強化されます。つまり、エンタープライズSOAによって法規制の変化にいち早く対応できるようになります。

SAP NetWeaverを基盤とし、そのコンプライアンス対応アーキテクチャを的確に構築することで、以下のような多岐にわたるメリットが得られます。

- SAP NetWeaverプラットフォームにより、コンプライアンス対応に共通して求められる機能が提供されるため、複数の法律や地域ごとに発生する作業の断片化と重複を削減できます。
- SAP NetWeaverで構築されるアプリケーションを拡張/変更して、法規制要件の変更に対応できます。
- mySAP Business SuiteとSAP NetWeaverとの統合により、適切なアプリケーションを利用することが可能となり、アプリケーション本来の機能とビジネスコンテキストをコンプライアンスに活用できるようになります。
- 各ビジネスプロセスに関連するGRC関連の課題は、SAP NetWeaverによってすべて解決できます。
- SAP NetWeaverにより、プロセスの自動化とリアルタイムコンプライアンスが可能となります。
- SAP NetWeaverの「再利用性/再現性」といった特徴を生かして、コンプライアンス対応の目的で導入したSAPとSAP以外のアプリケーションに対する投資効果を最大化できます。
- 各ビジネスプロセスとSAP NetWeaverとの統合により、コンプライアンス関連のコストを抑えるとともに、人的ミスを削減できます。

SAP NetWeaverをコンプライアンス関連の課題にも活用できるという事実は、このプラットフォームの幅広い機能を熟知しているユーザーにとっては決して驚くべきことではありません。問題は、差し迫ったコンプライアンス問題を解決するために、どのような方法でこれを適用すればよいかということです。本書では、GRC管理に対してSAP NetWeaverの主な機能がどのように提供されるのかについて解説します。特に、理解、文書化、ガイド/監視、レポート作成という4つの主要ステップについて詳しく述べます。SAP NetWeaverにはすでに広く利用されている機能がありますが、それ以外にも、GRC管理というコンテキストの中で威力を発揮する機能が多数存在します。

コンプライアンス以外の要素をも視野に入れる

CIO、最高コンプライアンス責任者(CCO)、最高リスク責任者(CRO)に一度、コンプライアンスについて聞いてみてください。コンプライアンス自体もそうですが、この問題への取り組みにおいて避けられないことが話題に上れば、同じ悩みを持つ人々はみな、うんざりしたような声を上げるでしょう。企業が直面している大きなプレッシャーは、政府機関や株主などへの説明責任です。そして、IT担当の幹部はかつてないほどの重責を負っています。

大半の企業は、コンプライアンスについて相変わらず場当たり的に対応しています。それは、本来の業務に費やすべき貴重な時間とリソースを奪うことにつながるコストの高い手作業であり、一方で、隙を見れば競合他社へのチャンスになりかねません。そして、コンプライアンスに関連し、同様に重要な課題であるガバナンスとリスクの効果的な管理に至っては、その重要性に見合うだけの注意さえ払われていません。GRC管理は、あらゆる業種の企業の戦略策定において間違いなく最優先課題であるにもかかわらず、多くの企業は旧来のIT戦略で当面の法規制要件にとりあえず対応しているというのが現状です。こうした企業では、法規制が変更されるたびに新たなアプリケーションが採用され、新たなチームが生まれています。

しかし、CIOレベルの企業経営陣の多くが、GRC管理には一定の目的を果たすだけの対応策では不十分だということに気づき始めています。コンプライアンスを正しく遂行し続けるということは、絶えず変化する終わりのない旅に出るようなものです。どこかに最終目的地があるわけではありません。コンプライアンスの旅を有意義なものにするためには、この業務を企業の本質や目的から切り離して考えたり、付属品のように考えるべきではありません。コンプライアンス対応上必要な作業は、ガバナンスとリスク管理のベストプラクティスとともに、すべてのビジネスプロセスに組み込まれ、企業の日常業務の一環としてとらえる必要があります。包括的な戦略と正しい手段があってこそ、単に法規制に準拠するだけでなく、効果的なGRC管理を競争優位の原動力に変え、それを持続できるようになります。「各法規制に(相互に統合していない)個別のソリューションを採用する企業の場合、1つのソリューションで複数の要件に対応する企業と比較して、コンプライアンスプロジェクトに10倍ものコストがかかります」とGartner社のリサーチ部門バイスプレジデントであるFrench Caldwell氏は、最近のプレゼンテーションで語っています。¹

企業に必要なのは、GRC管理に対するプラットフォームからのアプローチです。それにより、共通の機能をさまざまなGRCプロセスで必要に応じて再利用/再目的化し、進化と増大を続けるGRC要件に適合していくことができます。さらにこのプラットフォームには、主要なビジネスプロセスで使用されるアプリケーションのプラットフォームとしても機能することが求められます。これは、共通プラットフォーム上の主要なビジネスプロセスにコンプライアンスを組み込み、これらのコンプライアンスプロセスを通常のビジネスプロセスの一部として自動化するには欠かせない前提条件となります。つまり、共通の基盤を使用して業務とコンプライアンスの問題に同時に対処するには、プロセスの結合が必要であるということです。

SAP NetWeaverプラットフォームは、まさにこうしたGRC管理のためのプラットフォームアプローチに必要な、ツールとインフラストラクチャを備えています。本書では、今日企業が直面しているコンプライアンスの課題への対処として各種ITプラクティスを実行する際の、SAP NetWeaverを活用する方法について説明します。

1. Gartner Symposium ITxpo, 「Technologies for Compliance: Automating Your Way Out of Confusion」、2005年10月(22) SYM15, 10/05, AE)

GRC管理を支援するアーキテクチャを目指して

GRC管理のためにSAP NetWeaverが果たす役割を理解する第一歩として、「コンプライアンス管理」という概念が現在どのようにとらえられているかについて確認してみましょう。ここでは、コンプライアンスの現状とSAP NetWeaverのパワーについて、理解しやすいよう、課題を分割して考えます。

コンプライアンスを大きな概念で考えると、以下の3種類に分けられます。

- 垂直型の業種別規制。銀行業界のBasel II、ハイテク企業の環境規制である特定有害物質使用制限指令 (RoHS) および廃電気電子機器指令 (WEEE)、ライフサイエンス企業に対する米国食品医薬品局 (FDA) の米国連邦規則21条第11章 (電子記録/電子署名に関する規則) などがこの例です。
- 複数の業界を対象とする水平型の諸規制。Sarbanes-Oxley (SOX) 法や、国際貿易、データ保護、文書とレコードの維持管理、サプライチェーンのトレーサビリティに関する法律などがあります。
- 企業内での社内プロセスやポリシーフレームワーク。シックスシグマ、国際標準化機構であるISOによるISO 9000規格、最低賃金や労働環境を定めた世界各国の倫理規定などの自主基準などがこれに当たります。

以上3種類のコンプライアンスにはそれぞれ独自の特徴がありますが、実務レベルで考えると、各カテゴリのコンプライアンス要件は、図2に示す4つの共通ステップによって対応することができます。

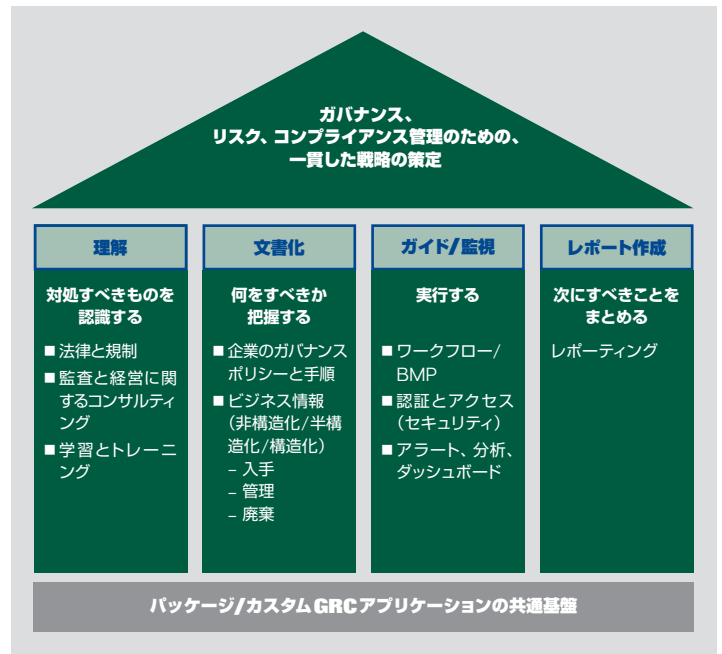


図2: ガバナンス、リスク、コンプライアンス管理における4つのステップ

各ステップの内容は以下のとおりです。

- **ステップ1: 理解**
コンプライアンスを効果的に実行するためのポリシーと手順を構築するには、一貫性のある法律と規制の解釈および理解が必要になります。
- **ステップ2: 文書化**
すべてのビジネス情報、データ、文書を随時、包括的に参照するためには、これらを収集、調整し、論理的にグループ化する必要があります。「一貫性のある、統一された情報ソース」をビジネスの関連情報と併せて共有し、従業員が十分な情報をもとに、法規制に則った意思決定を下せるようにします。ここで言う共有とは、できる限り多くの人々が、便利なインタフェースを介してコンプライアンスプロセスに参加できる環境を構築することを指します。インタフェースとしては、Webポータル、Microsoft Officeとの統合、オフィス外で使用するモバイル機器、あるいは音声認識ポータルなど、さまざまな形態が考えられます。

■ ステップ3：ガイド/監視

企業は、コンプライアンスプロセスに含まれるさまざまなロール（役割）を果たす従業員をガイドし、プロセスのステップを可能な限り自動化するワークフローを構築する必要があります。これらのプロセスは、常時監視下に置くだけでなく、重要なリスク指標に基づいてアラートが生成される仕組みを備えた、コンプライアンス違反を防ぐことができるものにします。

■ ステップ4：レポート作成

企業は、規制当局へ提出する最終レポートを作成するために、構造化データと非構造化データの両方を詳細に分析できる体制を作らなければなりません。これまでもさまざまなエキスパートが、政府機関、政府間機関、企業の取締役会、その他ステークホルダからの監視強化により、グローバル企業が抱えることになった課題について、さまざまな角度から検討を重ねてきました。その結果、単一のポイントソリューションや一時的なチームを作って対応するサイロ方式（相互に連携していない）で各コンプライアンス問題に取り組む現在の手法には限界があるというコンセンサスができつつあります。図3にそのトレードオフを示しました。GRCの要件が激増すると、企業の行動計画が破綻し、高度なテクノロジーを備えた企業であってもIT予算は膨大になります。

すべてとはいえないまでも大部分のコンプライアンスに関する要件は、さまざまな点で共通していると多くの企業が認識しています。このことから、財務と人事に関するコンプライアンスの負担を軽減する方策を導き出すことができます。つまり、さまざまな法規制や企業ポリシーの中から共通する要件に焦点を絞って取り組めば、システムやアプリケーションを新たに導入する必要がなくなるということです。資産とポートフォリオを慎重に見直せば、既存のサービス（アプリケーション）をコンプライアンスに活用したり、既存のテクノロジーを用いてコンプライアンスに対応する新たなサービス（アプリケーション）を追加することも可能です。

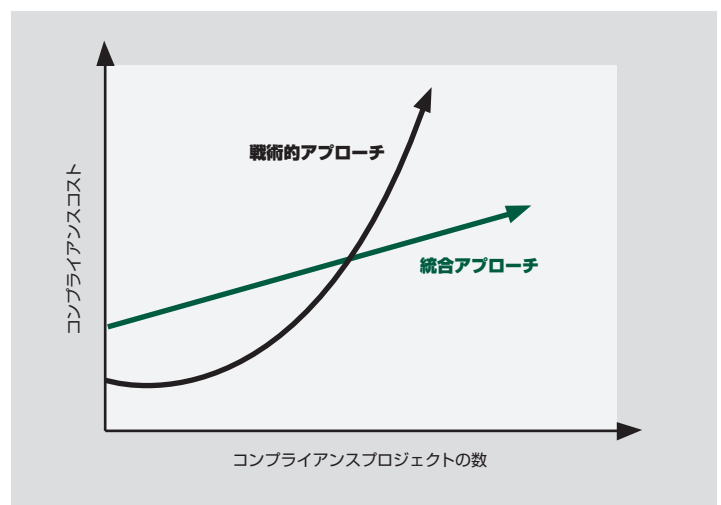


図3：コンプライアンスコスト：戦術的アプローチと統合アプローチ

ユーザ生産性向上	企業ポータル稼働	ユーザコラボレーションの実現	ビジネスタスク管理	ビジネスプロセスでのモバイル活用	エンタープライズ・ナレッジマネジメント	全社規模での検索
データ統合	マスタデータの調和		マスタデータの統合		マスタデータの集中管理	エンタープライズ・データウェアハウス
ビジネス情報管理	エンタープライズレポート、クエリ、分析	事業計画策定/分析サービス	エンタープライズ・データウェアハウス	エンタープライズ・ナレッジマネジメント	全社規模での検索	
ビジネスイベント管理	ビジネスアクティビティの監視			ビジネスタスク管理		
エンドツーエンドのプロセス統合	アプリケーション間プロセスの実現	企業間プロセスの実現	ビジネスプロセス管理	プラットフォームの相互運用性の実現	ビジネスタスク管理	
カスタム開発	アプリケーションの開発、設定、適合			プラットフォームの相互運用性の実現		
統合ライフサイクル管理	ソフトウェアライフサイクル管理			SAP NetWeaverの運用		
アプリケーションガバナンスとセキュリティ管理	認証とシングルサインオン			統合されたユーザ/アクセス管理		
統合	プラットフォームの相互運用性の実現	SAP NetWeaver運用	マスタデータの統合	エンタープライズ・ナレッジマネジメント	エンタープライズ・データウェアハウス	
エンタープライズSOA設計&開発	エンタープライズサービスの実現					

図4：SAP NetWeaverがサポートする主要なITプラクティス

このセクションの冒頭で述べた4つのステップ(理解、文書化、ガイド/監視、レポート作成)を利用して、多様なコンプライアンス要件を説明することもできます。SAPが作成したテクノロジーマップ(図4参照)は、ITプラクティス(図4の左側の列)を支援するSAP NetWeaverが提供するビジネス価値を示しています。このマップを利用して、GRCの課題に対してSAP NetWeaverをどのように適用できるか、より詳細に分析できます。各プロジェクトシナリオで、SAP NetWeaverはさまざまな主要ITアクティビティ(各行でブロックごとに示されています)をサポートします。いずれも、SAP NetWeaverの統合コンポーネントとツールを使って、容易に実装できます。ITプラクティスと4つのステップを併せて検討すると、SAP NetWeaverが企業全体および各GRCプロジェクト間で共有できる再利用可能なサービスによってどのようにGRC管理を実行するのか、明確に理解できます。

次のセクションでは、SAP NetWeaverの核となる統合機能が、どのようにこれらの共通要件を満たすのか、またGRC機能の提供によって、今後発生する一般的なコンプライアンスがどう解決されるのかについて説明します。

SAP NetWeaver:効果的なGRC管理の基盤

ここでは、前述したコンプライアンス要件の4つのステップを使って、コンプライアンスの課題に対するSAP NetWeaverの適用方法を検証します。そのために、各ステップについて検討するとともに、それらに適切なITプラクティスを説明します。

ステップ1:理解

GRC管理への取り組みにおける最初のステップは、何をすべきかを理解することです。このステップで主に必要とされることは、法律や規制を解釈して、ポリシーと手順に反映することです。法律や規制の解釈に、多くの企業が経営や会計分野のコンサルタントに相談します。ただ、何をすべきか理解した後には、社内のビジネスプロセスで統制を適用すべき部分を特定し、リスク監視のための情報を収集して、特定のコンプライアンスの要件とロールをサポートするアプリケーションを構築することが、企業に求められます。

SAP NetWeaverでは、**エンドツーエンドのプロセス統合**というITプラクティス、特にビジネスプロセス管理を通じて、プロセスのモデル化を達成できます。SAP NetWeaverを使用すると、適切な抽象化レベルで、一貫性のあるビジネスプロセスのモデル化が可能になります。高度なビジネスマップの作成、各ビジネスプロセスとそれらの相互作用のモデル化、さらに詳細なプロセスステップのモデル化などが可能です。ITチームは、SAP NetWeaverを使用して、コンプライアンスを企業のビジネスプロセス・モデルに組み込むことができます。

統合されたモデリング環境は、さまざまなツールによって実現されます。たとえば、ARIS for SAP NetWeaverやSAP Solution Managerがあります。前者は、統合シナリオとプロセスコンポーネントをビジネスレベルでモデル化できるアプリケーションです。後者は、SAPのアプリケーションによって、実現されるビジネスプロセスの運用状況を、技術レベルでモデル化するツールです。SAP Solution Managerから、SAPのテクノロジー環境内のビジネスプロセスが実装するさまざまなルールへアクセスすることができます。

ステップ2:文書化

文書化のステップをサポートするためのSAP NetWeaverのITプラクティスは、全ビジネス情報を取り込むこと、ステークホルダ全員へビジネスコンテキストを提供すること、コンプライアンスのメカニズムを企業の末端まで行きわたらせ、あらゆるユーザをサポートすることです。これらのITプラクティスには、ユーザ生産性向上、ビジネス情報管理、データ統合が含まれます。

多くの場合、管理者は、自分のロールと責務(すなわち、企業の構成要素そのもの)を、ITシステムに合わせて調整することを強いられます。しかし本来なら、ITシステムの方がユーザに合わせるべきです。SAP NetWeaverは、「ビジネスプロセス、特にITで実現されるプロセスとユーザの接点となる部分は、ユーザの現実の作業方法を反映しながら、さらにそれを改善するものであるべき」という思想のもとに設計されています。

これは、GRC管理のコンテキスト内では、ポータルを利用する場合もMicrosoft Officeのようなツールの統合機能を利用する場合も、実践するコンプライアンスの範囲は、インタフェースの選択によって拡張できるということの意味します。さらに、どのインタフェースを使用した場合でも、データは統一されたバックエンドシステムから取得されるため、データ整合性が保証されるということです。これらのプロセスはすべて、ユーザ生産性向上というITプラクティスに該当します。

次の課題は、構造化データと非構造化データを含むすべてのビジネス情報を入手して、これらの情報を保管、検索、追跡するメカニズムを構築することです。追跡とは、データや文書をいつ、誰が変更したかといった変更履歴を記録する機能です。加えて、こうしたデータや文書を企業全体で共有する必要があります。ユーザも規制当局も、データ形式に関してはまったく無関心です。彼らが望むのは、レコード(構造化データ、およびそれに関連付けられた、文書、スプレッドシート、PDF、Microsoft PowerPointプレゼンテーションなどの非構造化データ)が、入力時から廃棄時まで適切に管理されることだけです。

企業から生成される情報の大部分が、全社レベルで管理されていないということも明らかになっています。先ごろ開催されたシンポジウムで、Gartner社のToby Bell氏とKenneth Chin氏は、企業データの80%程度が構造化されておらず、さらにその90%が管理されていないと指摘しました。ローカルPCのハードドライブに保存されたMicrosoft Word文書、Microsoft Excelスプレッドシート、PDFファイルなどの情報に、社内の他のユーザはアクセスできません。このため、十分な情報がないまま意思決定が行われる、訴訟時の証拠開示が困難になる、プライバシー要件へ準拠できないなど、さまざまな問題が発生します。ビジネス情報管理というITプラクティスには、構造化された情報ソース/構造化されていない情報ソースの統合と管理、そして、それらを利用可能にするための処理が求められます。

ユーザ生産性向上：ポータル、ロール、プロフィール

SAP NetWeaverでは、コンプライアンスに関連する文書化ステップの第一歩は、すべて企業ポータルから始まります。SAP NetWeaverが提供するポータル機能では、各ユーザは信頼性と安全性が極めて高いシングルサインオンによって、それぞれニーズに合った機能やデータにアクセスできます。ポータル内の各ウィンドウには、電子メールや検索機能などのツール、文書の変更履歴追跡や共有のためのコラボレーションツール、古いアプリケーションや統合アプリケーションの画面などが含まれることとなりますが、各従業員、パートナー、サプライヤ、コントラクターに個別に関係するのは、一部の機能だけでしょう。

ポータルには、そのユーザにとって本当に必要な機能だけがあらかじめ表示されます。これは、GRCの目的を考えると重要なポイントです。ポータル環境で必要な機能を探す際に誤って(あるいは故意に)異なる機能を使用するというトラブルを、ほぼ完全に防止できるためです。ポータルは通常、ロールベースで設定されます。ロールは、ユーザの社内でのロール(営業マネージャ、顧客サービス担当者など)ごとに事前構成された設定を含む、標準化されたプロフィールです。この設定により、ユーザには必要な情報だけが提供されるため、各ユーザは自分の担当業務だけを実行できます。

ビジネスプロセスの点で見ると、ポータルの特性で最も重要なのは、実際に作業するときに、業務の流れを詳細に示したガイドプロシージャとして各プロセスが提示されることです。この方法により、個々のユーザは、日常業務に支障なく、コンプライアンスに対応したプラクティスを作成の流れの中で自然に処理できるようになるため、GRCアプローチには特に有用です。この方法については、後述のガイド/監視のステップで詳しく論じます。

ユーザ生産性向上：Duet™ソフトウェア

SAPとMicrosoftの革新的なコラボレーションにより生まれたDuet™ソフトウェアは、Microsoft OfficeとmySAP™ Business Suiteアプリケーションの完全な統合を通して、この機能をさらに拡張させます。エンタープライズSOAとMicrosoft .NETアーキテクチャのオープン性を利用したDuetでは、Microsoft Officeの画面にmySAP Business Suiteのビジネスプロセスと情報を表示できます。アラートを直接Microsoft Outlookの受信トレイに送信したり、Outlook内でイベントに対応できるため、リアルタイムのデータ管理が可能になります。フォームやその他の必要なデータタイプは、Microsoft InfoPathに表示して各ユーザに送信できます。重要なMicrosoft Officeドキュメントは、ローカルのハードドライブではなくmySAP ERP内に直接保存されます。GRC管理に欠かせないプロセスを含むビジネスプロセスを日常使用しているツールから実行できるようになるため、再トレーニングの必要性やプロジェクトワークフローへの影響も最小限で済みます。

2. Gartner Symposium ITxpo, 「Putting Content Into Context: Strategy, Integration, Analytics, and Valuation, 2005年10月(45F, SYM15, 10/05, AE)

ユーザ生産性向上：SAP NetWeaver Mobile

デスクトップポータルだけがユーザの生産性を向上させるインタフェースではありません。SAP NetWeaver Mobile コンポーネントを使用すると、モバイルデバイスの統合、同期、セキュリティ確保を実行できます。モバイルデバイスには、オンラインのノートPCやPDAだけでなく、目的に特化したオフラインのハンドヘルドデバイスも含まれます。これまでGRC関連情報は紙に記入した後で取り込まれていましたが、作成時にリアルタイムで入力できるようになります。たとえば、交通事故の現場に駆けつけ、怪我人を急いで最寄りの病院に運搬する救急医療技術者(EMT)の場合を考えてみてください。EMTは、怪我人の状態に関する重要情報を、その場でモバイルデバイスに入力し、後で病院のシステムと同期させることができます。そうでない場合、情報は相当な時間が経過した後で紙に記入されることとなります。EMTの記憶が鮮明なうちに記録されたデータは信頼性が高いため、医療過誤裁判の証拠開示の段階でEMTの要件と実際の行動が問題になったときなど、後になって役立つことがあります。

ユーザ生産性向上：ナレッジマネジメント

ポータルを、ナレッジマネジメント・ツールやデータウェアハウスとともに使用すると、各ユーザがドキュメントやレポートを共有/検索できるようになります。これらのドキュメントとレポートが、構造化情報と非構造化情報(複数の文書やスプレッドシートに含まれる情報など)のどちらから生成されているかは関係ありません。SAP NetWeaverのナレッジマネジメント・コンポーネントは、契約書やポリシーのようにたびたび改訂される文書への変更を追跡する目的で開発されました。SAP ArchiveLink®ソフトウェアは、原始証憑とビジネスデータをリンクします。これらの機能により、GRC管理の一環として、すべての関連情報が確実にポータル内に収集/保存されます。これは、たとえば特許の出願プロセスなどで有効です。この機能は、ある決定の時期、内容、意思決定者の特定が必要となる場合にも重要となります。また、SAP NetWeaverのデータアーカイブ機能は、データのライフサイクルを管理する堅牢なメカニズムを提供します。これにより、オンラインアプリケーションから履歴データを抽出して、保存に関する法的規制に従ってその情報を管理できます。

データ統合：「統一された情報ソース」の実現

SAP NetWeaverが提供するデータ統合というITプラクティスは、文書化ステップもサポートします。このITプラクティスにより、企業は構造化されたマスタデータを統合、調整、管理し、データウェアハウスで処理して、分析とレポート作成に利用することができます。

GRC管理に、サイロ方式のアプリケーションではなくプラットフォームアプローチを採用するメリットの1つは、データがプラットフォーム上にある限り、どのデータベースのレコードでも収集、結合、調整できるという点です。データの重複を解消するにはこの機能が不可欠です。たとえば、ある顧客が電話勧誘拒否名簿への名前の追加を要求している場合、もしその顧客名が複数のエントリに含まれていても、確実にテレマーケティングのリストから削除できます。または、ある有害物質に一意のわかりやすい名前をつけ、関連する製品特性をすべて標準化して、簡単かつ迅速にアクセスできるようにすることができます。この場合も、情報が複数のデータベースに保存されていることが問題にはなりません。

ステップ3: ガイド/監視

効率的で有効なコンプライアンスプロセスを確実に遂行するためには、プロセスの手順を可能な限り自動化して、コンプライアンス違反のリスクがある場合にはアラートが通知されるという仕組みが望ましいでしょう。

SAP NetWeaverでは、エンドツーエンドのプロセス統合というITプラクティスを実行できます。これにより、アプリケーション間統合から企業間統合までを含むシナリオにおいて、各プロセスの自動化に必要なアクティビティを実行できます。ビジネスイベント管理のITプラクティスでは、単純な自動化以上のアクティビティを実行し、高度な例外管理を実現することができます。ビジネスイベント管理に含まれるITプロセスとして、ビジネスアクティビティの監視があります。ここでは、マニュアル作業が必要なとき、つまり、事実に基づく決定や自由な決定が要求される場面で、アラートが通知されます。また、ビジネスプロセス管理の各プロセスにより、従業員を正しい手順でガイドし、標準、規制、ポリシーに準拠させることが可能になります。

このような、人とITシステム間のコミュニケーションはすべて、セキュリティのITプラクティスで保護する必要があります。そうすれば、企業のシステムにアクセス可能なユーザとそうでないユーザを、常に把握することができます。

ビジネスイベント管理: ワークフローを使ったビジネスプロセスの管理

法規制要件は、適用範囲が拡大され内容が複雑化しているだけでなく、繰り返し変更されています。従業員が独力でコンプライアンスの責任を負うことはほぼ不可能です。SOX法を例にとれば、この法律により10万もの社内規定を制定することになった企業もあります。そして、多数の企業が、これらの規定に対応するデータをMicrosoft Excel スプレッドシートにまとめる作業を続けています。人件費、エラー発生の危険性、それにより生じる罰金、エラー回避のためにスプレッドシートを2重、3重にチェックするための追加コストなどを考えると、心穏やかではられないでしょう。

かつては場当たりのビジネスプロセスでも十分でしたが、GRC管理という点では、これらのプロセスをさらに構造化して、検証に対応させる必要があります。SAP NetWeaverによるビジネスプロセス管理では、適切な人に適切な業務を割り当て、時間内に業務を完了し、最高の結果を達成するための手法を提供するなど、段階的にユーザをガイドしていくことでコンプライアンスを実現します。SAP NetWeaverにより、企業はワークフローとガイドプロセスを構築できます。これにより、ビジネスイベントは、最も適切なビジネスプロセスのコンテキストに沿って、複数のシステムから適切な意思決定者に伝達され、最善の形で解決されます。ガイドプロセス(ポータル環境ではロールベースプロセス)は、ホームコンピュータのセットアップ手順をガイドするウィザードと同様に、GRC関連の煩雑な作業を容易に処理できます。この方法により、頻繁には発生しないが概して単純ではないGRC業務を各ユーザが段階的に処理でき、人的ミスの可能性を最小限に抑えることができます。

ビジネスイベント管理: 自動化と監視

プロセス統合/人とコンピュータ間のコミュニケーション自動化の次の課題は、例外管理です。この管理方法では、複数のソリューションが統合され、ほぼ完全に自動で動作するように設定され、迅速な対応と解決が要求されるイベントが例外的に発生した場合にのみユーザに通知されます。これは実際には、ポータル、ビジネスアクティビティの監視、エンドツーエンドのプロセス統合というSAP NetWeaverの各機能を通して監視を行い、該当する主要業績指標(KPI)で判断することになります。また、これらの機能を使用して、KPI評価時に例外イベントとそうでないものを区別するルールや、例外イベントのアラートを送信するユーザ、タイミング、送信先インターフェース(ポータル、メールの受信トレイなど)を振り分けるルールを設定することも可能です。

アラートは、SAP NetWeaver Exchange Infrastructure (SAP NetWeaver XI) コンポーネントによりメッセージ形式で生成され、CCOのデジタルダッシュボードに赤で点滅表示されます。通知されるアラートには、セキュリティ違反、ユーザによるアクセス権侵害、前週の製品返品率の大幅増など、さまざまな内容が考えられます。たとえば返品率の場合、CCOは返品率が製品の欠陥に起因しているのかどうか判断し、製品回収の必要性を検討して問題に対処します。

継続的な監視ルーチンによるアラート管理体制の維持、緊急の問題の迅速な通知、適切なアクションが可能になることにより、企業はコンプライアンス違反を回避できます。これがリスクの軽減につながります。例外管理を実行することで、これまでの手作業がプロセスとして統合・自動化され、人的リソースと労働時間を削減でき、長期的には大きな経費削減が見込めます。

ビジネスイベント管理は、ユーザに対してプロセスのガイドを提供する機能と、プロセスを最大限まで自動化する(プロセスの実行にマニュアル作業が不要な場合)機能を組み合わせることで実現します。ビジネスイベント管理の代表的な例として、従業員の採用から退職の過程全体におけるユーザIDの発行/認証作業があります。当然ながら、従業員の在職中は、標準化および管理されたID発行/認証サービスを常に提供する必要があります。ビジネスイベント管理プロセスを採用することで、従業員の雇用から退職までの間、部署異動や昇進などがあっても、その都度現行のポリシーに合わせて適切なアクセス権を発行/破棄できるようになります。

人事部門、各部門管理者、ITのロール管理者/アクセス管理者、その他の関係者が、適切な流れで新しいIDと権限を要求、照合、承認できるようガイドするのが、ワークフローです。この「適切な流れ」が、ワークフローの各ステップということになります。ワークフローのステップには、職務分掌 (SoD) の適切性チェックなど、完全に自動化できるものが複数あります (SoDとは、1つの業務に複数の人員を割り当てることで不正行為を防止するという概念です。あらゆるIT組織にこの概念を適用することで、不正または悪質なデータ、トランザクション、その他の変更が必ず発見されるようになります)。IDの承認者は、自動チェックの結果に基づいて意思決定を下すことができます。また、ITシステムの定期的なチェックを設定して、既定のポリシーや統制方針から逸脱する権限を持つユーザがないか確認できます。ここでは、問題が検出された場合は、アラートは情報セキュリティ責任者に送信されます。

アプリケーションガバナンスとセキュリティ管理: セキュリティの強制

SAP NetWeaverにより、アプリケーションガバナンスとセキュリティ管理というITプラクティスを実行できるようになります。これにより、柔軟性、ユーザの生産性、顧客やパートナーとのコラボレーションを犠牲にすることなく、知的財産と情報資産のセキュリティと品質を適切レベルに維持できます。ここでは、統合ユーザ/アクセス管理によってセキュリティを管理できるだけでなく、認証とシングルサインオン管理によってID管理とアクセス管理という2つの懸念事項に対処できます。つまり、「このユーザはだれか」、「このユーザがアクセス権を持っているプロセスはどれか」といったことが簡単にわかります。

SAP NetWeaverは、ID管理の面では、一元的なユーザ管理をサポートします。ここでは、異種混在環境に対応するための Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サービスとの統合なども行われます。一方アクセス管理の面では、きわめて複雑なビジネスプロセスまでもサポートする非常に詳細な認証管理機能を提供します。SAP NetWeaverにより、ユーザロールと権限を詳細に定義して社内外からの不正アクセスの可能性をほぼ完全に排除できるだけでなく、不正アクセスが発生した場合のアラートも実行できるようになります。

ID管理とアクセス管理機能にさらに高度なセキュリティ機能を付加するのが、Virsa Compliance Calibrator for SAPアプリケーションです。このソフトウェアにより、綿密なリスク分析、リスク検出、アクセス/認証に関する問題の修正が可能になります。特に、必須とされる SoD を緻密に実現できるようになります。

言うまでもなく、アプリケーションやプラットフォーム間、そして企業内でやりとりされるメッセージの、機密性、完全性、認証性、否認不可性を維持することは非常に重要です。SAP NetWeaver が提供する追加のセキュリティ機能に、シングルサインオンがあります。シングルサインオンの使用は、個々のユーザにセキュリティクリアランスを付与する手続きに似ています。SAP NetWeaver は、ユーザを認証し、そのアクセス権を追跡して、SAP NetWeaver をプラットフォームとするあらゆるビジネスプロセスの運用を管理します。SAP NetWeaver プラットフォームでは、プロセスの各段階で新たなアプリケーションが呼び出されるたびにユーザ情報の再入力进行を要求するのではなく、各ユーザまたはユーザロールに対しルールを設定して、それを監視します。ユーザロールを利用する場合は、ルールを設定した後、各ロールにユーザを割り当てていくことになります。

たとえばログオンとログオフをすべて記録するなど、セキュリティロギングを適切に設定することで、シングルサインオンを黙示的に監査することができます。さらに、監査情報システムとセキュリティ監査ログ機能が実現するフレームワークによって、SAP NetWeaver からシステム管理コンソールにアラートを送信し、あらゆるセキュリティ違反を管理者に警告できます。また、規制やポリシー要件に基づいてユーザの行動を構造的に分析することも可能です。

このように、SAP NetWeaver は、このプラットフォームで動作するすべてのアプリケーションに対し、集中管理され、費用対効果が高く、かつ柔軟な設定が可能なセキュリティフレームワークを提供します。また、このセキュリティフレームワークを必要に応じてパートナー各社の製品で拡張して、独自の要件（バイオメトリック認証方式など）に対応したり、特定のデータエントリ機能を保護する（ドキュメントのアップロード前にウイルスチェックを実行するなど）ことも可能です。

ステップ4: レポート作成

すべての企業には、規制当局に対する規制遵守の証拠提出という義務が課せられています。SOX 法、愛国者法、RoHS、WEEE、その他遵守しなければならない規制は無数にあります。問題は、いかにして競合他社よりも少ない費用とリソースで、100% 正確な証拠を提出するかです。

SAP NetWeaver 単体では、いかなる規制へのコンプライアンスも担保できません。主要なビジネスアプリケーションを、規制に特化した（企業独自の、または SAP や SAP のパートナーが提供する）コンポジットアプリケーションで拡張する必要があります。これらのコンポジットアプリケーションを使えば、少なくとも、情報を統合して規制当局が定める水準のレポート形式に変換することが可能になります。

しかし、レポート作成ステップに対して、SAP NetWeaver プラットフォームアプローチは、規模、簡易性、コストの点でまったく異なるソリューションを提供します。SAP NetWeaver は、GRC ソリューション用の基本的な機能を提供します。SAP NetWeaver のマスターデータ管理機能、データウェアハウス機能、分析ツール、ドキュメント管理機能といった、主に「ビジネス情報管理」と「データ統合」の IT プラクティスの中で実行される各機能の使用により、企業は、正確なマスターデータを格納するセントラルリポジトリを利用して、必要情報を記載したレポートを簡単に公開できます。規制ごとに唯一対応が必要なものは、最終レポートの「様式」だけです。

このアプローチを、特定の規制に特化したソリューションと比較してください。特定の規制に特化したソリューションの場合、レポート生成のたびにデータの調整、統合、分析が繰り返し行われます。こうしたアプリケーションがどれだけの労力を無駄にしているのでしょうか。また、データの精度は高くなるのでしょうか。答えはノーです。

将来のレポート作成機能:リアルタイムコンプライアンスの実現

1つ重要なことは、レポート機能が必ずしも「印刷形式のレポート」だけを対象としていないことへの認識です。たとえば、最新バージョンのmySAP ERPでは、SAP NetWeaver Master Data Management (SAP NetWeaver MDM)コンポーネントと連携するエンタープライズサービスを構築できます。これによって、たとえばGRCに関するチェック機能を製品開発プロセスそのものに組み込むことが可能になります。これは、ハイテク製品部品に関連するRoHSやWEEEなどの環境コンプライアンスにおいて、レポートを別途出力するプロセスよりもはるかに効果的なアプローチとなります。問題発生後にコンプライアンスをチェックするのではなく、コンプライアンス要件を満たすための条件をプロセスに組み込み、業務の一部として実行できるのです。このプロセスでは、RoHSとWEEEのコンプライアンス標準を満たしていない部品があれば、開発プロセスそのものが停止されることを意味しています。具体的には、関連する各システムにSAP NetWeaver XI経由でメッセージが送信され、製品の製造停止が指示されます。完全なコンプライアンスが実施されると、開発を再開することができます。

エンドツーエンドのプロセス統合、デジタルダッシュボード、エンタープライズサービス対応の各機能を集中化していくと、このようなサービスやワークフローが必然的に形成されていきます。SAP NetWeaverのコンテキストの中では、レポート機能の位置づけが、事後的なプロセス(会計年度末のレポート作成など)からリアルタイムプロセスに移行していくことが予測されます。こうすることで情報を見わたせるようになり、コンプライアンスの状態を常に確認でき、年度末集計などで発生する事後対応コストを確実に大幅に削減できます。また、日常のプロセスにおけるマニュアル処理を可能な限り抑えることで、人的ミスのリスクを最小限にします。

エンタープライズSOAの実現:設計と導入

SAP NetWeaverは、GRCの4つのステップに対して、包括的なライフサイクル管理とカスタム開発アクティビティをサポートする、包括的なツールセットを提供します。これらのアクティビティは、効果的なGRC管理の中核として、ビジネスの継続性を維持します。

統合ライフサイクル管理:集中管理

統合ライフサイクル管理は、集中型の監視、アプリケーションパフォーマンスの管理、ジョブスケジューリング、データアーカイブに関連するITプラクティスです。統合ライフサイクル管理の目的は、コンプライアンスプロセスを含む全ビジネスプロセスとそれを支えるITリソースを効率良く処理し、維持することです。GRC管理のコンテキストでは、統合ライフサイクル管理ツールは、ユーザログイン、自動化プロセスのトリガー、スケジュールされたジョブなど、ソフトウェアライフサイクルの全イベントの記録/アーカイブを実行します。その後これらのイベントは、1つの画面上にレポートされます。この場合はSAP NetWeaver Administratorツールが使用されます。その他関連するSAP NetWeaverの機能には、集中監視コンソールと監査情報システムがあります。

このフレームワークは不可欠です。それは、SAP NetWeaverの統合ライフサイクル管理が、必ずしもGRCの課題だけを前提に設計されているわけではないためです。しかしSAP NetWeaverには、プラットフォームアプローチによって包括的な監視、管理、アーカイブに対応しているというメリットがあります。これは、スタンドアロンソリューションを導入してそれぞれのコンプライアンス要件を個別に監視する方法とは正反対です。エンタープライズSOAなどのサービス指向アーキテクチャで、複数のアプリケーションにまたがるビジネスプロセスの自動化が進んでいることから、この事実は今後、より重要な意味を持つことになるでしょう。このアーキテクチャでは、意思決定の過程や一連のアクションの内容を理解するためには、連続するイベントを追跡することが必要となります。

さらに、SAP NetWeaverのデータアーカイブ機能により、すべてのアプリケーションデータを対象とした、包括的なデータライフサイクル管理アクティビティを実現できます。SAP NetWeaverが実現する強力なツールによって、明確なルールのもと、データセットを選択し、オンラインデータを廃棄できるようになります。データは、ニアラインストレージに移しておくだけで、後は法規制要件が定める保存期間どおりに廃棄されます。

エンタープライズSOA：コンプライアンスを組み込む基盤

SAPはエンタープライズSOAの開拓者であり、先駆的存在です。次世代のビジネス駆動型ソフトウェアアーキテクチャであるエンタープライズSOAでは、アプリケーションはサービスとオブジェクトに分離されます。サービスとオブジェクトはあらゆる組み合わせで結合/再結合できる柔軟性を備えており、開発上不都合な点もほとんどありません。このエンタープライズSOAの基盤を形成しているのが、SAP NetWeaverです。SAPは現在、SAPのアプリケーションにエンタープライズサービスを組み込むための取り組みを続けています。その1つがmySAP Business Suiteビジネス・アプリケーション・ファミリーでの取り組みで、将来はアプリケーションとコンプライアンスソリューションを自由に再結合/構成する機能が提供される予定です。SAP NetWeaverの機能は、企業のエンタープライズSOA設計/導入アクティビティを支援します。また企業は、既存のIT投資を生かして、斬新なビジネスプロセスを低コストで自由に構成できるようになります。また、SAP NetWeaverはエンタープライズサービスの迅速な開発と導入を実現するツールとコンポジットアプリケーションも提供します。コンポジットアプリケーションは自由に構成/再構成できるため、リスクに迅速に対応できるようになるとともに、規制の変更にも対処できます。

エンタープライズサービスを利用することで、コンプライアンスのさまざまな手法をシステム環境全体で活用するサービスを構築できるようになります。たとえば、主要なビジネスプロセスの中で、適切なエンタープライズサービスを使ってチェックすることにより、コンプライアンスアプリケーションが自動的に内部統制の状況を検証することも可能になるでしょう。

カスタム開発：SAP NetWeaver開発ツールキット

SAP NetWeaverは、IT部門によるパッケージアプリケーションおよびカスタム開発アプリケーションの構築とサポートを可能にするとともに、パッケージアプリケーションからカスタム開発アプリケーションへの再構成を可能にする複合プラットフォームとして設計されました。このプラットフォームは、SAP NetWeaver Developer Studio ツールを利用してJavaならびにSAP ABAP™ プログラミング言語をサポートします。しかしSAP NetWeaverが提供するものは単なるプログラミング環境ではありません。SAP NetWeaverを使用することで、開発の全ライフサイクルを管理することができます。コーディング、構築、運用環境でのテスト、最終的なアプリケーション導入までのすべてを、認証機能と監査証跡をサポートする、統制された単一の環境から管理できます。

SAP NetWeaverをプラットフォームとして導入することにより、コンプライアンスを重視する企業は、コンプライアンス専用アプリケーションの購入か、企業独自のビジネスプロセスに対応するカスタムソリューションの構築かという選択の迷いから解放されます。

エンタープライズSOAをサポートし、モデル駆動型の開発ツールを備えるSAP NetWeaverでエンタープライズサービスを利用することにより、パッケージアプリケーションの機能を再構築してカスタムソリューションで活用することが可能になります。

このアプローチには多くのメリットがあります。GRC関連の問題が発生するたびに、スタンドアロンアプリケーションを購入してハードコーディングによるアプリケーション間統合で結合させる必要がなくなり、SAP NetWeaverを利用した別のアプローチで対応できるようになります。SAP NetWeaverにより、コードの再利用とエンタープライズサービスを通じたアプリケーション機能の拡張、コンプライアンス対応のコンポジットアプリケーションの構築を効率的に行うことができます。

GRC管理の基盤、SAP NetWeaver

SAP自身も、自社のGRC業務のすべてをSAP NetWeaverプラットフォームで実行しています。SAPでは、グローバルなリスク管理イニシアチブの一環として、財務報告にかかわるあらゆるリスクを特定、評価、監視したいと考えていました。SAP NetWeaverにより、SAPは自社のさまざまなビジネスアプリケーションの関連情報を迅速に活用し、それらの情報をSOX法コンプライアンス専用アプリケーションに結合しています。また、GRCの課題への対応を主目的とする分析用コンポジットアプリケーションを構築しています。そして、同じ目的で開始された初期プロジェクトの1つから、SOX法セクション404のコンプライアンスを監視する6種類のアプリケーションが生まれたのです。

SAPのエンジニアは、mySAP ERPの内部統制管理機能を利用し、わずか5週間で、SAP NetWeaverを基盤とする6種類の分析アプリケーションを作成しました。アプリケーションの主な目的は、データを可視化する直観的なツールを作成してSOX法対応状況の把握に要する期間を短縮することです。そのツールに含まれるのは、任意に実施されるセクション404の全コンプライアンステストと評価を監視するための総合アプリケーション、評価の進行状況とそれまでの評価結果を監視する3つのツール、評価中に検出された問題のステータスを追跡し優先度を設定するツール、SOX法へのコンプライアンスを管理するソフトウェアからサインオフする従業員の詳細情報を管理するツールです。

これらのアプリケーションはすべて、SAP NetWeaver Portalからアクセスできるよう構成されました。すべての分析アプリケーションは、ロールに割り当てられた各ユーザのポータルインタフェースの中で、iViewsと呼ばれるポートレットとして表示されます。ユーザロールには、経営者層、社内のSOX法対策チーム、ローカルのSOX法推進チーム、各ユニットマネージャ、財務/管理担当者などが含まれます。

このソリューションは、最終的には、経営陣が内部統制状況について常に最新情報を入手でき、問題解決作業を直接追跡できるソリューションとしてまとまりました。また、プログラミング言語が含まれていないため、どのツールも容易に変更または再モデル化でき、将来新たに発生する要件にも対応できます。

なお、SAPのリスク管理チームは、StrategicRISK誌が主催する「European Risk Management Team of the Year in 2005」賞を受賞し、これらのアプリケーションに対する高い評価が示されました。同賞の詳細については、以下をご覧ください。

<http://www.strategicrisk.co.uk/awards/default.asp?id=Win05>

そして、SAPのグローバルリスク管理チームは、「Most Effective Use of Technology」および「Enterprise Wide Risk Management Program」の各賞も受賞しています。

結論

SAP NetWeaverには1つ不可能なことがあります。それは、GRC戦略に関するCIOの不満を完全に止めることです。すでにおびたしい数の規制があり、さらに増加することは確実です。このような状況では、それを考えるだけで途方に暮れてしまうことは、仕方のないことかもしれません。

しかし、SAP NetWeaverを基盤とするプラットフォームアプローチは、明確な根拠を示してCIOの悩みを解決していくことができます。1つ目に、SAP NetWeaverが本来備える豊富な機能は、さまざまなGRCプロジェクトで簡単に再利用できます。機能の例として、堅牢なワークフローエンジン、統合ドキュメント管理、ビジネスインテリジェンス、ポータル機能、XMLベースのメッセージングフレームワーク、セキュリティフレームワークなどが挙げられます。また、コンプライアンス業務においてレポートの発行が必要な場合は、SAP NetWeaver Business Intelligenceコンポーネントツールがレポートを作成します。データウェアハウスでのデータ統合だけが必要な場合も、SAP NetWeaverが提供するオプションにより実行できます。単純なGRC業務を実行するための基本ツールセットであれば、プラットフォームに直接組み込まれています。

2つ目に、SAP NetWeaverは、mySAP Business Suiteとの緊密な統合はもちろん、SAP以外のアプリケーションとも簡単に統合できます。そのため、GRCツールはSAP NetWeaverに導入されたアプリケーションが備えるデータや機能にアクセスでき、これらのデータや機能にコンプライアンス対応の要素を持たせることができます。GRCツールをSAP NetWeaverに組み込むことにより、このプラットフォームが対応する領域で常にこれらのツールを利用できます。これは、スタンドアロンソリューションの限界をはるかに超えるものです。

3つ目に、ビジネスプラットフォームの適用範囲が拡大し、ソフトウェアのエンタープライズサービス対応が進むにつれ、企業独自のビジネスプロセスやニーズに合わせてカスタマイズされたコンポジットアプリケーションを構築するだけで、GRCの課題に対応できるようになります。SAP NetWeaverは、こうしたコンポジットアプリケーションを構築して、ビジネスプロセスの中核に統合するためのツールセットも提供します。このツールセットを使って、スタンドアロンアプリケーションをSAP NetWeaverプラットフォームに組み込むことにより、ビジネスプロセス統合やその他の業務の統制を維持しながら、スタンドアロンアプリケーション独自のGRC機能を利用することができます。

要約すると、企業のGRC管理業務のためにSAP NetWeaverが提供するビジネス上の主なメリットは、以下のようになります。

- SAP NetWeaverプラットフォームが共通機能を提供するため、複数の法律や地域ごとに発生する作業の断片化と重複を削減できます。
- SAP NetWeaverで構築されるアプリケーションを拡張/変更して、法規制要件の変更に対応できます。
- mySAP Business SuiteとSAP NetWeaverとの統合により、適切なアプリケーションを利用することができ、アプリケーション本来の機能とビジネスコンテキストをコンプライアンス目的で活用できるようになります。
- 各ビジネスプロセスの中で生じるGRCに関連した課題は、SAP NetWeaverによってすべて解決できます。
- SAP NetWeaverにより、プロセスの自動化とリアルタイムコンプライアンスの実現可能性が生まれます。
- SAP NetWeaverの機能は再利用できるため、コンプライアンス目的で実施したSAPとSAP以外のアプリケーションに対する投資効果を最大化できます。
- 各ビジネスプロセスとSAP NetWeaverとの統合により、コンプライアンス関連のコストを抑えるとともに、人的ミスを削減できます。

GRC管理のためのSAP NetWeaverのサポート内容の詳細については、SAPの営業担当者か下記までお問い合わせください。

<http://www.sap.com/japan/contactsap/>

また、関連資料や最新情報は、こちらをご覧ください。

<http://www.sap.com/japan/grc/>

www.sap.com/japan/contactsap

THE BEST-RUN BUSINESSES RUN SAP™



SAP ジャパン株式会社

本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル TEL 03-3273-3333 (代表)

<http://www.sap.com/japan/>